

# 都市住民に 天草での田舎暮らしを

～空き家情報バンク  
制度を創設～



「天草に住みたいのですが…」という市への問い合わせが、最近急増しています。  
これは、団塊の世代の方々の退職が始まり、「退職後は田舎でゆっくり、のんびり過ごしたい」といったふるさと回帰への関心の高まりや、都会での便利な生活から田舎での心豊かな生活を望む若い世代の方々の増加などによるものです。  
今回は、こうした現状を踏まえて市が取り組んでいる「天草グリーンライフコミュニティ事業」の取組状況や、新たに創設した「空き家情報バンク制度」などについて紹介します。

## グリーンライフ コミュニティ事業の取組状況

市では、団塊の世代の方々や、都会に住んでいる人たちが出身地などに戻って生活するU・J・Iターンを望む方々を対象に「都市と農山漁村の共生と対流」を進める『天草グリーンライフコミュニティ事業』に取り組んでいます。  
この事業は、増大する遊休農地を活用して、都市住民に天草の海・山・郷の豊かな自然の恵みを生かした天草ならではの田舎暮らしを提供しようというものです。また、天草への定住や、都市と天草の両方に居住地を持つ二地域居住などにつなげることで、過疎化・高齢化が進む集落（地域）の活性化を図ることを目的としています。  
事業を進めるにあたっては、市と特定非営利活動法人グリーンライフあまくさ（西山忠彦・理事長）が協働で実施。民間のアイデアなどを積極的に取り入れながら事業展開を図っており、現在は下浦町金焼地区をモデル地区として選

定し、各種の事業に取り組んでいます。実施している事業は次のとおりです。

### 【啓発活動】

◆各種イベントなどでのPR活動  
ふるさと回帰フェア（東京・大阪）や天草フェア（福岡）に参加し、都市住民に天草での定住をPR。

◆天草で暮らそう！  
体験ツアーの実施

平成18年11月にモデル地区で第1回を開催。その後、春夏秋冬を基本にこれまで7回実施。関東や関西、福岡、熊本などから延べ139人の都市住民が参加。



◆熊本・福岡都市圏でのシンポジウムの開催

平成18年度は熊本市内で、同19年度は福岡市内で、天草での定住や二地域居住をテーマにしたシンポジウムを開催。

### 【遊休農地の活用】

◆遊休農地の復元（都市住民の農業体験の場として活用）  
モデル地区の農地約0・83haを復元。カライモやジャガイモ、菜

## 自然豊かな田舎に住みたい！ 都市住民の声

これまで実施してきた「天草で暮らそう！体験ツアー」の参加者の中に、天草への移住を本格的に考えている人がいます。また、都市住民から移住相談があった件数が、昨年4月から約55件に上るなど、天草への移住希望者が年々増えてきている状況にあり、市でも、その受入体制の充実を図っています。

都市住民が天草への定住・二地域居住を希望する理由や、田舎暮らしに対する要望などを紹介します。

の花などの栽培と収穫を体験。

### 【起業化支援】

◆食を生かした起業支援（葉膳レストランと特産品加工所の開設）  
モデル地区に、地元住民による起業として、地元産の旬の食材を使って料理を提供するふるさと葉膳レストランを開設予定。また、かんきつ類を利用した特産品の加工施設を整備予定。

## 移住相談者の声

- ・天草には随分前に行ったことがある。中途半端ではなく、納得して移り住みたいし、空き家があったらぜひ借りたい。  
（奈良県在住・夫婦と  
小学1年の子ども1人）
- ・天草は以前訪れたときに気に入ったところ。移住して民宿をしたい。  
（兵庫県在住・夫婦と子ども1人）
- ・定年後に移住を考えている。天草は候補地の一つで、まだ移住すると確定はしていない。情報が欲しい。  
（茨城県在住・夫婦）
- ・出身は阿蘇。定年後、田舎に帰ろうと思うが、天草はいいところなので、天草に行きたいと考えている。空き家があれば紹介してほしい。  
（大阪府在住・夫婦）
- ・以前、天草を旅行してとても気に入った。現在、コンピュータ関係の仕事をしているが、天草に移住して、できればいろんな仕事をしてみたい。  
（兵庫県在住・夫婦）

## 体験ツアー 参加者の感想

- ・体験ツアーに参加した子どもが生き生きとしていた。
- ・1週間もいると、すがすがしい気持ちになると思う。永住に向けた機会を見つけていきたい。
- ・中・長期的に住める施設があったら、しばらく住んでみたい。
- ・体験ではなく、実践として農業を行ってみたい。
- ・モデル地区周辺に空き家があれば紹介してほしい。